

シリーズ「人権レクリエーション」 ～みなさんゲーム～

「え！これも人権教育？」と思う方もいるかもしれませんが、レクリエーションを行うとき、少し人権の視点を入れるだけで、人権教育になります。

レクリエーション(ゲーム)は、協力してゴールを目指すものや、瞬時に作戦を立て、仲間と協力しなければ勝てないもの、結果よりも達成できたことが喜びにつながるものなどさまざまです。また、思考を働かせる能動的な活動でもあります。

レクリエーションは、お互いに直接的な関わりを生むため、育てたい人権感覚であるコミュニケーション能力や人間関係調整能力、想像力・共感的に理解する力などの技能的側面と自他を肯定しようとする意欲や態度などの価値的・態度的側面を自然なかたちで育むことができます。

今回から数回にわたり人権感覚を育成するためにおすすめの人権レクリエーションを紹介し、行う上でのポイントを紹介していきます。

～みなさんゲーム～

○目的

このゲームは、最後まで話を聴くことは自分を大切に、相手を大切にすることにつながることで、聴くことの意味の確認など、コミュニケーション時に大切な根っこ部分を確認し、実感させることができます。

○進め方とポイント

①「みなさん〇〇してください。」と「みなさん～」とリーダーがいったとき、指示されたとおりに動きます。

②「みなさん」といっていないときは、指示されたことはしません。

※ゲームを始める時は必ず、「今からはじめます」といってから、ゲームを終える時は必ず、「これで終わります。」といい、ゲームの開始と終了を知らせます。これがゲームをスムーズに進めるポイントです。

③振り返り

※「振り返り」のポイントは、「コミュニケーション力」を意識し子どもたちの感想や意見を引き出し、つないでいくことです。

※次回は、バナナ鬼についてお知らせします。

「特別研修会Ⅰ」 外国人の人権

当教育事務所の研修等で実施したアンケートの中で、最も要望の多かった「外国人の人権問題」について特別研修会を実施(6月24日)しました。

前半は、中学校の社会科の教科書を使って、「なぜ日本に在日韓国・朝鮮人が多いのか」という歴史的な経緯を確認しました。部落問題と同様、「何故現代においても差別が存在するのか」を考える時、歴史的な事実や背景、経緯を学び(知識的側面)、課題への理解を深めることが大切です。

後半は、学校での具体的な対応について、「本校に在籍する外国人児童生徒が相談してきた時にどう関わればよいか」という事例をもとに意見を出し合いました。それぞれのグループでは本校の現状を通して日々考えていることや悩みを出し合いながら、課題点や解決に向けてどんな取組ができるのかを考えました。

研修会後のアンケートによると、参加した理由としては、「国籍をめぐるトラブルがあった時に、どう指導していけばよいか知りたい」「外国籍の児童生徒、保護者とどう関わっていけばよいか考えたい」等、日々の取組に生かしていくためにという先生方が多くおられました。

今後外国にルーツをもつ児童生徒が増えていく中で、「みんなが安心して学べる学級・学校づくり」について深い話ができました。

本年度は6月の実施でしたが、来年は参加しやすいように、特別研修会Ⅰ・Ⅱとも夏休み休業中の実施を検討しております。詳しくは年度初めのチラシをご覧ください。

来年度より「同和問題」「被差別部落の形成の歴史」について、毎年実施し、理解を深める機会を増やしていく予定です。教科書で同和問題をどう指導していくのか等も含めた研修にいきますので、是非ご参加下さい。

あいのて 13号
平成28年10月14日

note....



発行 京築教育事務所人権・同和教育室

はじめに

とても暑かった夏が過ぎ、朝夕は肌寒くなってきました。秋は、様々な行事などに取り組み、子ども達の明るい声が学校中に響きわたっているのではないのでしょうか。

本年度も半分が過ぎようとしています。後半の授業実践や来年度の取組等にご活用いただける3点についてご紹介します。

①人権感覚って何？

人権教育でよく出てくる「人権感覚」という言葉があります。「人権感覚」とはどんなものなのか、育てるにはどうすればよいか、育つとどうなるのか、福岡県人権教育推進プランを使って分かりやすく解説します。

②人権レクリエーション

人権教育というと、固苦しいイメージがあるかもしれませんが、「子ども達が体を動かして楽しめるようなアプローチはないだろうか」という視点から実際に小学校で取り組まれた「レクリエーションを取り入れた人権教育」を紹介します。

③インターネットに関する授業実践例

今、スマホや携帯など、インターネット上で様々なトラブルが起こっていて、児童生徒の中で人間関係が崩れてしまう実態があります。「授業を通して、どのように指導したらよいのだろうか？」という質問に、第1回福岡県人権教育研修会で京築地区から報告した実践をもとにお答えします。

これから冬に向けてどんどん寒くなりますが、一人一人が大切にされる人権教育の視点というストーブの火をともしことで、心が暖まる授業づくり、学級づくり、学校づくり、地域づくりを京築から発信していきたいと思えます。

人権教育の「ツボ」

人権感覚ってなに？

<人権感覚の定義>

人権の価値やその重要性にかんがみ、人権が擁護され、実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対にこれが侵害されている状態を感知してそれを許せないとするような、価値志向的な感覚

〔人権教育の指導方法等のある方について「第三次とりまとめ」より〕

「人権感覚が育った子ども」って

こんな自分が好き。
なかなか自分もやるな。

～さんの気持ちが私には、分かる。

このことは、おかしいな。

友だちって、すごいな。大切な友だち。

こうしたら、いいと思うよ。

自他を肯定しようとする意欲や態度等

想像力・共感的に理解する力
コミュニケーションの能力
人間関係を調整する能力等

価値的・態度的側面

技能的側面

人権感覚は、日々の授業の中で育ちます。特に「交流活動」が有効です。

「Aさんの考えいいね。私の考えも似ているよ。」

⇒ 自他を肯定しようとする意欲や態度

「Bさんはきっと〇〇をもとに考えたのだろう。」

⇒ 想像力

「Cさんがそう思った気持ち、よく分かるなあ。」

⇒ 共感的に理解する能力

「DさんとEさんの考えを合体させたらどうかな。」

⇒ 人間関係を調整する能力

上記のような発言を教師が取り上げ（モデル化）、よさを褒め（意味付け・価値付け）、活用をうながすことで身につきます。

「DさんとEさんのアイデアを合体させる」という〇〇さんの発言、すてきですね。こんな発言が増えるとうれしいな。



小学校第5学年：自他の人権が尊重できる児童を育成する取組

～あおぞら「インターネットの掲示板」の活用～

今回は、インターネットによる人権課題に関する実践例を紹介しします。

情報化社会を生きる児童生徒が、拡散性・閉鎖性・匿名性といったインターネットの特性を理解し、相手の存在や心情を想像し、尊重する態度を身につけ、良好な人間関係を築けるように、教科等を横断的に、人権教育の視点を踏まえ指導した実践例です。特に、今回は、人権感覚（価値的・態度的側面）の育成を中心とした**道徳の時間の実践を紹介**しします。

本実践が目指す人権教育で育てたい資質・能力と教科等の関連

自分の人権を守り、他の人の人権を守るための実践行動

人権に関する知的理解

人権感覚

知識的側面

価値的・態度的側面

技能的側面

社会科

道徳の時間

学級活動(2)

「単元名:くらしを支える情報」
・情報化の進展と国民生活への影響
・情報の有効な活用の大切さ
・様々な情報に対する適切な判断、望ましい行動、良好な人間関係を築くためのルール理解

「主題名:相手の気持ちを考える強い心」
内容項目:4-1(1)公德心
・あおぞら「インターネットの掲示板」の活用
・自他を尊重することで良好な人間関係を保とうとする態度の育成

「題材名:スマホ・インターネットのよりよい使い方」
・生活に身近な携帯電話・スマートフォンを使う時の共通の問題の理解
・良好な人間関係を保つための努力目標の設定と実践行動への意欲の喚起

人権に関する知的理解と人権感覚をバランスよく育成しています！



本道徳の時間での人権教育を通じて育てたい資質・能力

【人権感覚:価値的・態度的側面】

相手の立場になって考えることで、人間関係をよりよいものに保とうとする態度を育てる。

本時のねらい <内容項目:4-1(1)公德心>

登場人物の言動について話し合う活動を通して、自分の行為がだれかに影響を及ぼしていることに気づき、自他を尊重し、社会の一員として誰もが気持ちよく生活できる社会をつくらうとする態度を育てる。

<展開例>

正しく理解する

導入

- 1 自分の安易な言動から相手に不快な思いをさせてしまった経験を話し合い、良好な人間関係を保ちたいという課題意識をもつ。
- 2 あおぞら「インターネットの掲示板」という題名からSNSの活用状況やイメージ、特性について出し合い、本時の学習のめあてをもつ。

めあて:インターネットを利用する時に大切な心を見つけよう。

展開前段

- 3 登場人物の言動や心情について話し合う。
(1) 初めて1人でインターネットの掲示板に書き込みをした時の主人公の心情を考える。
(2) おもしろおかしく掲示板に書かれた主人公の心情を考える。

当事者の思いや願いに共感する

- (3) 掲示板に主人公のことを書き込んだ級友の心情を考える。

後段

- 4 児童の経験や考えを交流し、インターネットを利用する時に大切な心について話し合うことができるようにする。

終末

- 5 「初めて知ったこと」「今までの自分」「これからの自分」の視点で学習を振り返り、シェアリングする。

自分事としてとらえる

※この資料では自らの課題という意味で「自分事」という表現を使っています。